

小僧の化け物退治・仁多郡奥出雲町大呂 令和3年11月2日

収録・解説・酒井 董美 たまたよし

イラスト・福本 隆男



語り手 村尾澄子さん（大正15年生）
収録・昭和47年6月21日

あらすじ

昔、和尚と小僧とおったが、その小僧が手に合わんので、和尚さんが「修行に出え」と言われたげな。小僧は荷物をからげて坂を下りよつたら、「小僧、小僧。ちよつともどれ」言われたげな。そして和尚さんは「大木の根より小木の根。方丈の間（和尚さんの部屋）より次の間、縁の下まで」と言われた。小僧さんは出たげな。

大きな雷が鳴って雨が降りだいた。和尚さんは「大木の根より小木の根」と言われたから、小僧は大きな木の下から、細い木の下へ行ってしやがんでおったげな。

そうしたら、大きな木に雷さんが落ちた。田んぼ道を行っていたら、日が暮れるようになったげな。

それから、他所の家に行つて、「今夜、泊めてござさしやい」と言ったら、「そこの後ろの庵寺に泊まらつしやい。だれもないから」言う。

小僧さんはそこへ行って寝ちよつたら、夜中時分「テン

テンコツつあん、うちんかね」と言つて何やら来た。「はえ、はえ」とアマダ「草葺き小屋の二階」で声がある。それから恐ろしいなあと思つていたら、また、「テンコツつあん、うちんかね」とまた何か来た。

やがて、「今夜は坊主くさいぞ」とアマダで言い出したげな。それから小僧は恐ろしいので、方丈の間で小さくなつていたけれど、和尚さんが「方丈の間より次の間、縁の下まで」と言われたからと縁側の下に隠れておったげな。

化け物たちが方丈の間から出て、次の間へ入つて騒動して捜しているうちに夜が明けたら化け物が、「今日はこおでしまわあ。おらあアマダへいんじようけん」「おらあ、庭の垣根の上にながちようけん」「おらあ、後ろの竹山へいんで寝ちようけん」言つて帰つていったげな。小僧が「何の化け物がおつたやら」と縁側の下から出て、庭の垣根へ行って見たところ茶壺の化け物

♪ 千年生けた

このチャツチャ 茶壺と垣根の上で踊っていたげな。

手に負えない小僧さんだから、

「二千年生けたこのこつ小僧がー」と行つてスポーンと押したら、茶壺が落ちて黒血吐いて死んだ。次にアマダへ上がったら、大きな椿の木でこしらえた木槌が一つあつた。「テンコツつあん言うのはこの木槌だ」と上から下へ落としたら、黒血を吐いて死んだ。今度、「竹山へいんじよう」言つたから竹山へ行つたら、鶏の化け物が寝ておつた。たたき殺し小僧さんがもどつて、寝ちよつたげな。村の衆が、

「夕べは小僧は化け物に噛み殺されたらあが、行つてみよう」と大勢で来たたら、小僧が化けものを退治しておつたので、村の者が喜んで、その小僧さんをそこのお寺の和尚さんにしたげな。昔こつぽし。

解説

これは関敬吾『日本昔話大成』で調べると、「笑話」の中の「話千両」と「本格昔話」の「愚かな動物」の中にある「化物問答」とのそれぞれの一部が結合して一つの話になっているものです。

（元島根大学法文学部教授）

